

## 留学の理由・目的

私の夢は、経済や社会環境にとらわれることなく平等に輝ける社会を実現することです。この夢を達成するために19歳で起業家となり、人々の自立を循環的かつ持続的に生み出すエコシステムの創造を目指しています。今回の留学の目的は、国際的な視野を広げ、異なる角度から社会課題をビジネスで解決するソーシャルビジネスの知見や方法を学ぶことです。特に、フィリピンのスラム街で売春する女性やHIV感染者を救いたいという思いが私の原動力です。

## 留学先での活動と生活の環境

留学先はスウェーデンとアメリカです。スウェーデンでは、女性や移民女性のエンジニア教育を推進するITスタートアップ企業でインターンシップを行い、ワークショップやPOPUPの開催を手伝い、日本を含めたアジアのトレンドリサーチや就労支援などを担当しました。また、女性のリーダーシップに焦点を当てたプロジェクトを立ち上げ、女性起業家のライフバランスを調査し、自己啓発アプリの開発を進めました。アメリカでは、日本の企業のグローバル展開を支援する企業でUXデザインを学びました。また、現地のベンチャーキャピタルへの新規事業案の発表も英語で行うことができました。これらの活動を通じて、現地の起業家との交流やビジネスの実践を積み重ねる貴重な経験を得ることができました。

## 1日あたりのスケジュールなど

1日のスケジュールは、朝8時30分にオフィスに出勤し、16時まで仕事を行いました。ランチタイムや14時のフィーカ（お茶の時間）には同僚とお菓子を持ち寄り、穏やかな時間を過ごしました。仕事後はコワーキングスペースで現地の起業家とアイデアを議論したり、グループプロジェクトや講演会に参加したりしました。19時過ぎに帰宅し、ホストファミリーと料理をしながらディナーを楽しみ、その後はヨガをして1日を締めくくっていました。

## 留学して学んだこと

留学を通じて、自分で突き進むことの大切さを学びました。自分で掴み取る力は大変必要です。知らない土地で、誰も知り合いがない、今まで自分のいた場所とは全く違う新しい世の中の動きや経済の発達、状況がありました。それはプラスのことばかりではなく、治安や社会構造からマイナスな面もあり、何度も日本に帰りたと思うこともありました。だからこそ、その場に萎縮してしまうのではなく、日本人の私だからこそできることを見つけて入り込む図々しさが必要です。今置かれる環境に自分は何が還元できるのかを常に考え、日本の現状や課題を自分ごととして話す、自分の想いをしっかりと伝えるような意識をしていました。この留学で学んだことは、今後の多文化社会でも活かせる力だと信じています。

## 語学がどのくらい上達したか

語学については、日常会話においてほぼ問題なくコミュニケーションを取れるようになり、英語への抵抗感がなくなりました。さらに英語を学びたいという意欲が高まりました。

## 留学を薦める理由

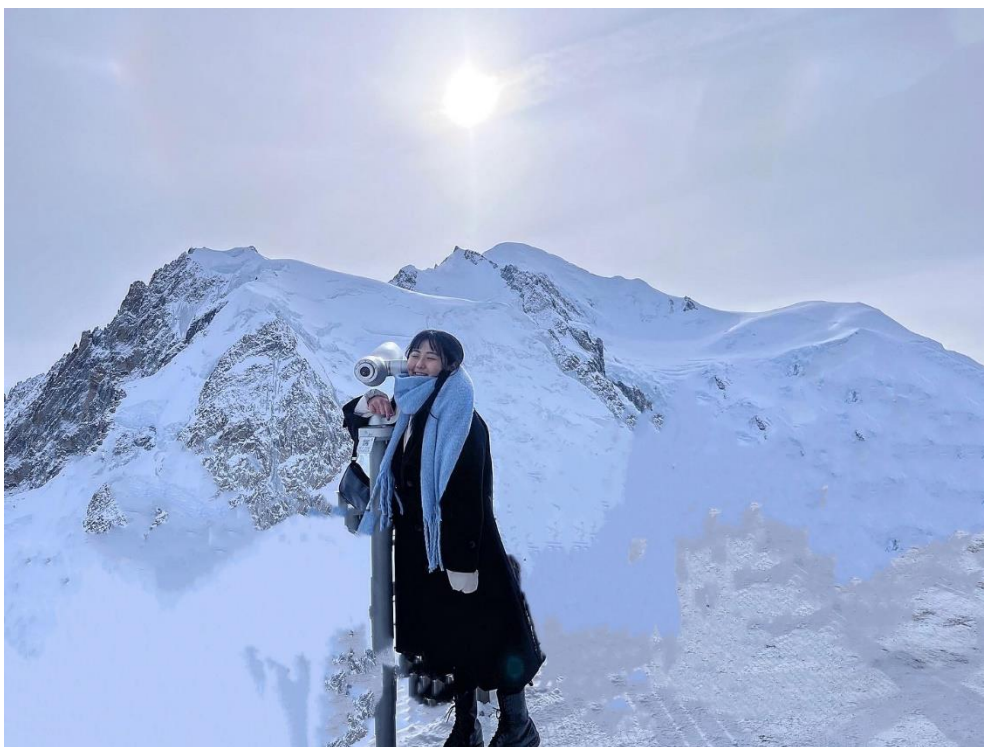
留学を薦める理由は、グローバルな視点を持つことができる点にあります。世界の情勢を理解することで視野が広がり、新たな課題解決の方法や自分自身の成長に繋がるからです。私自身、留学を通じてフィリピンの女性たちの課題解決という夢から、より広範な女性の労働環境改善という大きな目標を見つけることができました。

## トビタテで留学して良かったこと

トビタテで留学して良かったことは、事前研修や現地においても留学交流推進課の職員さんたちがサポートしてくださり、安心して留学期間を送ることができたことです。そして何よりも、異なる国で頑張っている同期の存在は大きな励みとなりました。



お世話になったインターン先のボス達



スウェーデンの氷河 ケブネカイセ (Kebnekaise) を登った際の写真



ゴールデン・ゲートブリッジとの写真 滞在していた家の近くだったため良くお散歩していました。



Google 本社（シリコンバレー）を訪れ、現地で活躍する日本人にインタビューをした際の写真